

敷地内案内図

- ①正門
- ②駐車場
- ③本館
- ④北村透谷碑
- ⑤北條秀司碑
- ⑥からたちの小径
- ⑦赤い鳥小鳥童謡碑
- ⑧尾崎邸書斎
- ⑨収蔵庫
- ⑩白秋童謡館
- ⑪藤田湘子碑
- ⑫南門

利用案内

■ 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■ 休館日 年末年始（12月28日～1月3日）

■ 観覧料

	一般	小中学生
個人	250円	100円
団体(20名以上)	180円	70円

■ 交通

*小田原駅から箱根方面行きバス 箱根口下車徒歩5分

■ 駐車場 7台



白秋童謡館



尾崎邸書斎

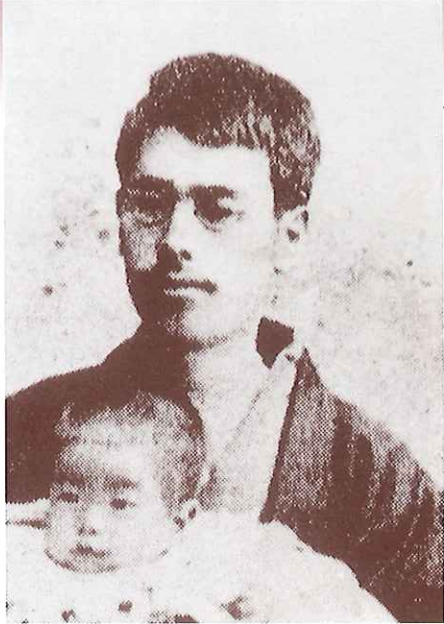


小田原文学館

小田原文学館

〒250-0013 小田原市南町2-3-4
TEL 0465(22)9881





北村 透谷
(1868~1894)
代表作
『蓬萊曲』『楚囚之詩』
『厭世詩家と女性』

KITAMURA

■ 別館 白秋童謡館

福岡県柳川市に産まれた北原白秋は、大正7年から同15年までの8年ほどの間を小田原ですごし、この間に全童謡作品の半数近くを創作しています。これを記念して、童謡集や童謡原稿など、白秋の童謡創作に関わる資料を展示しています。

2階では、ビデオ「童謡のふるさと小田原-白秋が愛したまち」などの放映を行なっています。

KITAHARA

北原 白秋 (1885~1942)
小田原時代の作品 (童謡集)
『とんぼの眼玉』『兔の電報』
『まざあ・ぐうす』『祭の笛』『花咲爺さん』



尾崎 一雄 (1899~1983)
代表作
『暢気眼鏡』『まぼろしの記』『虫のいろいろ』
『あの日この日』

OZAKI

展示案内

■ 本館

1階 小田原出身の文学者

近代文学の先駆者となった北村透谷のほか、牧野信一・尾崎一雄・川崎長太郎・北原武夫らの小説家、「民衆詩派」の福田正夫・井上康文など、小田原出身作家の作品等を紹介しています。

2階 小田原ゆかりの文学者

「山よし海よし天気よし」(斎藤緑雨)とも評された風光明媚な小田原に惹かれて移住してきた、谷崎潤一郎・三好達治・坂口安吾・北條秀司・岸田国土らの著名作家の活動を紹介しています。

3階 展望室・休憩室

テラスから、四季折々に美しい姿を見せる庭園や、石垣山のほか、雄大な箱根山方面の眺望もお楽しみいただけます。室内では、明治・大正の古きよき小田原の風景を伝える古写真等を展示しています。

■ 尾崎邸書斎

『暢気眼鏡』等の作品で知られ、昭和58年3月、惜しまれつつ死去した小説家 尾崎一雄の業績を忍び、小田原下曾我の自宅にあった書斎を平成18年に移築しました。

可能な限りもとの部材を活かしており、室内の調度品類もすべて尾崎家から寄贈されたものです。

小田原文学館の建物と庭園

小田原文学館の建物は、土佐藩の郷士で、幕末に陸援隊に参加し、明治維新後は、警視總監・宮内大臣などを歴任した伯爵田中光顕の別邸として建てられたものです。

本館は、スペイン風建築(昭和12年)、別館は純和風建築(大正13年)で、ともに国の登録有形文化財に指定されています。

和洋折衷の回遊式庭園では、春の桜や秋の紅葉など、四季折々の風情が楽しめます。

【庭園内の文学碑】

*北村透谷碑

小田原出身の彫刻家・牧雅雄が製作したこの碑は、昭和4年に大久保神社に建立され、昭和29年に城址公園内移転を経て、平成22年に文学館に移されました。碑文は島崎藤村の筆によるものです。

*北原白秋 赤い鳥小鳥童謡碑

白秋の住まいがあった城山伝蔵寺にある碑と同じもので、代表的な童謡作品「赤い鳥小鳥」の詞が刻まれています。

*北條秀司碑

「王将」「文楽」等で知られる不世出の劇作家 北條秀司の旧宅が付近にあったことから、平成14年、その生誕100年を記念して建立されました。碑文には「まだ尽きず 八十六の作家の業」と刻まれています。

*藤田湘子碑

小田原出身の俳人 藤田湘子の業績を記念して平成17年に建立されました。碑面には代表作の一つ「愛されずして沖遠く泳ぐなり」の句が刻まれています。

赤い鳥小鳥童謡碑

